

整理番号	
研究課題名	富巨細胞骨腫瘍の臨床病理学的検討
研究の対象	1990年1月1日以降、栃木県立がんセンターにて巨細胞を呈する骨腫瘍（修復性巨細胞肉芽腫、骨巨細胞腫、軟骨芽細胞腫、動脈瘤様骨嚢腫、富巨細胞性骨肉腫など）の診断・治療のため通院し、治療を受けた方が本研究の対象となります。
本研究の目的、方法	<p>骨腫瘍の中には、病理組織学的に破骨細胞型多核巨細胞が多く出現する腫瘍がいくつかあります。具体的には、修復性巨細胞肉芽腫、骨巨細胞腫、軟骨芽細胞腫、動脈瘤様骨嚢腫、富巨細胞性骨肉腫などが含まれます。良性のものから、悪性のものまで存在しますが、多くは中間悪性に分類される原発性骨腫瘍であり、しばしば局所再発、まれに遠隔転移を呈し、治療に難渋することも多いです。各組織で治療法が異なるため、正確な診断が必要ですが、各組織に特徴的な診断マーカーがないため、過去の症例においては病理診断が難しい症例も多く存在します。</p> <p>近年、科学の進歩により、各組織に特徴的な遺伝子異常が発見され、診断マーカーとしての有用性が報告されるようになってきました。本研究では、慶應義塾大学病院整形外科、および関連施設による慶應骨軟部腫瘍研究会（Keio-AMOR）の多施設共同研究として、過去に診療を行った富巨細胞骨腫瘍の新規診断マーカーの探索や新しい診療戦略の確立を目指し、臨床病理学的検討を計画しました。栃木県立がんセンター骨軟部腫瘍・整形外科も慶應義塾大学病院整形外科の関連施設となっています。</p> <p>本研究の目的は、慶應義塾大学病院および関連施設における富巨細胞性骨腫瘍の患者の臨床情報と手術検体を病理学的に解析して、その正確な病理診断の向上と、治療成績の向上のために改善すべき点を明らかにすることです。慶應骨軟部腫瘍研究会（Keio-AMOR）に参加している施設において、1990年以降に診断・治療を行った、富巨細胞性骨腫瘍の患者さんの病状の経過、治療の詳細と手術検体を調査します。各施設は匿名化した診療情報を研究事務局（慶應義塾大学医学部整形外科）に送ります。事務局は、送られた診療情報をまとめ、解析を行います。</p> <p>研究実施期間：2019年1月～2022年12月</p>
使用する診療情報/検査試料の種類	対象となる患者さんの、診療情報（年齢、性別、受診した時の症状、腫瘍の発生部位、臨床病期に関する情報、病理に関する情報、治療内容に関する情報、治療後の経過など）を収集させていただきます。加えて手術検体の解析を行

	<p>います。近年、骨巨細胞腫や軟骨芽細胞腫の原因となる遺伝子が同定されたため、その遺伝子や破骨細胞の活性化に関わる遺伝子の発現を調べます。</p> <p>なお、個人を特定できるような情報は収集しません。</p>
他の研究機関への提供の有無	<p>1990年以降に診断・治療を行った、富巨細胞性骨腫瘍の患者さんの病状の経過、治療の詳細と手術検体を調査します。匿名化した診療情報を研究事務局（慶應義塾大学医学部整形外科）に送ります。事務局は、送られた診療情報をまとめ、解析を行います。</p>
公表	<p>研究成果は学会や医学論文などに発表します。</p>
本研究の資金源/企業からの援助（利益相反の有無）	<p>本研究は慶應義塾大学整形外科研究費でおこないます。本研究は企業との共同研究ではなく、企業からの資金提供もありません。</p>
お問い合わせ、連絡先 （当該研究における当センター内での責任者）	<p>お問い合わせや以下のことなどあればお申し出ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 ・ ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができます。 ・ 研究の進捗、結果についてお知りになりたい場合は、その時点でお答えできる範囲でお教えします。 <p>栃木県立がんセンター 所属 骨軟部腫瘍・整形外科 科長 名前 菊田 一貴 〒320-0834 栃木県宇都宮市陽南 4-9-13 TEL 028-658-5151 FAX 028-658-5669</p>
備考	

- * この用紙は、包括同意で研究を行う際に IRB 申請時に研究申請書等と共に提出し、IRB 承認を得る。
- * 初回 IRB 申請時から情報が更新になった場合は、研究者の責任においてこの用紙も変更し、IRB 申請を行う。
- * 研究終了後 5 年間はホームページ上に掲載する。